

主催：埼玉県地質調査業協会，共催：(社)地盤工学会関東支部埼玉グループ，後援：埼玉県

平成26年度「技術講演会」のご案内

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

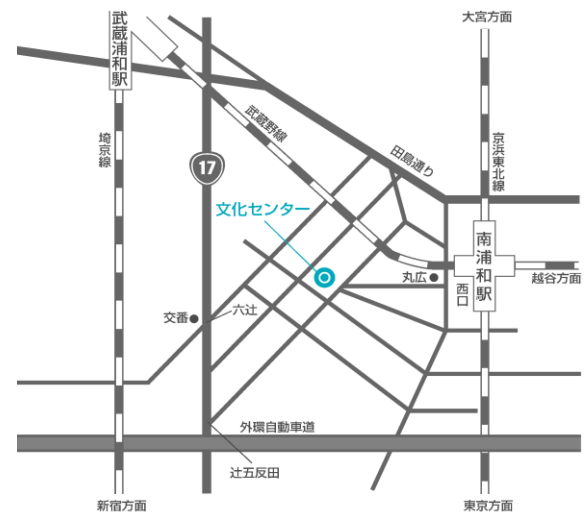
さて、このたび、埼玉県地質調査業協会では、各専門の分野でご活躍の著名な諸先生をお招きし、例年実施してまいりました技術講演会を、本年も以下のような内容で開催することとなりました。

つきましては、多数のご参加を頂きたく、ここにご案内申し上げます。

— 記 —

1. 日 時：平成27年1月21日(水)
受付開始 13:00
講演会 13:30~16:45

2. 場 所：さいたま市文化センター
小ホール（しらさぎホール）
さいたま市南区根岸1-7-1
TEL 048-866-3171(代)
J R京浜東北線・武蔵野線
南浦和駅 西口下車 徒歩7分



3. 演 題：演題1：巨大地震発生帯の真実 - 深海掘削が明らかにした地震発生帯の描像-
独立行政法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
地球深部探査センター (CDEX) センター長代理 倉本真一 先生
演題2：土工構造物の維持管理に関する最近の動向について
独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所 地質・地盤研究グループ
研究員 藤田智弘 先生
演題3：「平成26年8月広島豪雨災害」を例とした防災・減災について
中国地質調査業協会 副理事長 広島県支部長 外山涼一 先生

4. 申込先：埼玉県地質調査業協会 事務局
埼玉県さいたま市南区鹿手袋 4-1-7
TEL 048-862-8221 FAX 048-866-6067

5. 申込期限：~~平成27年1月14日(水)~~ → 平成27年1月20日まで

6. 定 員：300名 (定員に達しましたら締め切らせていただきます。)

7. CPDポイント：3ポイントの予定

8. 参加費：無 料

平成26年度 技術講演会 プログラム

司会者 技術委員 加藤洋一

- 13:30～13:40 会長挨拶 埼玉県地質調査業協会 会長 安部有司
- 13:40～14:40 演 題：巨大地震発生帯の真実 - 深海掘削が明らかにした地震発生帯の描像-
講 師：独立行政法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
地球深部探査センター (CDEX) センター長代理 倉本真一先生
講演要旨：地球深部探査船「ちきゅう」は、これまでに南海トラフと日本海溝での巨大地震発生帯掘削を実施し、それぞれのプレート境界断層を貫通し、断層試料の採取に成功しました。南海トラフでの掘削は、1944年の東南海地震発生場で行い、また日本海溝での掘削は、2011年の東北地方太平洋沖地震の発生場で行いました。巨大地震や津波を起こすプレート境界断層とは、どのような岩石から構成され、断層活動時にどのような物性変化があったのか？掘削試料に残された証拠と、室内実験などにより、そのメカニズムが明らかになってきました。「ちきゅう」による、世界初の海溝型巨大地震断層掘削の最新の成果を紹介します。
- 14:40～15:40 演 題：土工構造物の維持管理に関する最近の動向について
講 師：土工構造物の維持管理に関する最近の動向について
独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所 地質・地盤研究グループ
研究員 藤田智弘 先生
講演要旨：従前は土工構造物に対する「維持管理」という概念はほとんどなく、変状が発見された際に修復（事後対応）が行われるのが常であった。しかし、中央自動車道笹子トンネルでの天井板崩落事故を契機に、土工構造物を含めた土木構造物に対してメンテナンスサイクルを構築するという方針が打ち出された。土工構造物では橋梁に代表される鋼コンクリート構造物に比べ、「経年劣化」のような構造物の性能低下の影響よりも、降雨や地震といった外的作用の変動によって被害が発生しているという特徴がある。このような特徴から、土工構造物の維持管理においては構造物の劣化だけでなく、構造物に対する作用に着目することが重要であるが、構造物への作用の判断にはより深い技術力と経験が必要である。
そこで、土工構造物に求められる維持管理に関する概要、土工構造物の初期段階に損傷を効率的に検知する健全性判定手法と健全性判定対象を抽出する点検手法、損傷被害の具体的な事例で紹介する。
- 15:40～15:50 休 憩
- 15:50～16:40 演 題：「平成26年8月広島豪雨災害」を例とした防災・減災について
講 師：中国地質調査業協会 副理事長 広島県支部長 外山涼一 先生
講演要旨：平成26年8月20日未明に、広島市街地北部周辺で発生した土砂災害について、現地調査を実施した体験をもとに所感をのべる。
15年前に発生し、我々が6.29災害と呼んでいる豪雨による土砂災害を契機にして、土砂災害対策法（俗に土砂新法と呼んでいる）が出来、施行された。それを基に広島県ではいわゆるレッドゾーン、イエローゾーンを決める土砂基礎調査が毎年発注されてきた。それにもかかわらず、今回同じような形態の土砂災害発生に際して、その調査が災害軽減にほとんど役に立っていないように思える。それはなぜか。また、広島県は全国47都道府県の中で最も多い急傾斜の危険箇所がある。逆に比較的緩傾斜地に多い地すべりは、全国でも最も少ない県の一つである。それは広島県に広く分布する花崗岩等が風化したことに由来するまさ土が大きく関与していると言われている。その花崗岩の風化の特徴等について述べる。さらに、土石流対策としてハード面で有効とされている砂防ダムや治山ダムの効用についても触れたい。
- 16:40～16:45 閉会挨拶 埼玉県地質調査業協会 技術委員長 阿部 博

平成26年度技術講習会 申込書

平成 年 月 日

埼玉県地質調査業協会
会長 安部有司 行

〒336-0031 さいたま市鹿手袋4-1-7
TEL 048-862-8221

日時：平成27年1月21日（水）開演13：30～（受付開始13：00）
会場：さいたま市文化センター 小ホール（しらさぎホール）
さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3171（代）

所 属	係（課）	氏 名

出席者数 合計 名

申込書は下記宛に FAX 等をお願いいたします。【平成27年1月14日（水）まで】
（大変申し訳ございませんが、定員に達しましたら締め切らせていただきます。）

埼玉県地質調査業協会 事務局 FAX 048-866-6067
メール chishitu@mountain.ocn.ne.jp